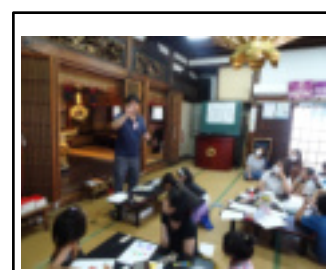
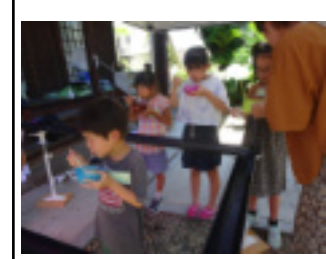


じゅしゅう

第23回 浄覚寺子ども会夏のつどい

七月十六日、晴天に恵まれた中で「第23回浄覚寺子ども会夏のつどい」を開催することができました。そして、なんと四年ぶりとなる「流しそうめん」を復活させることができました。聞きますと、一方向を向いて黙食を行っていた小学校の給食も、ようやく机を向かい合わせて昔ながらのスタイルに戻ってきているようです。たくさん笑顔の中で食事を共にすることができました。

初めての参加者も多かったのですが、開会式ではお念珠の持ち方やお経本の扱い方そしておつとめをした後には「南無阿弥陀仏」のお念



仏にはどんな意味があるのか、ということをお話しさせていただきました。

南無阿弥陀仏は阿弥陀さまの別名です。私たちの名前と同じく、名前には意味や願いが具わっています。

お念仏を称えたからといってテストに受かるわけでも病気が治るわけでもありません。生きていく限り良いことも悪いことも起こります。たとえこんなことがあつ

ても打ち勝てるような強い人間になりなさい、とは阿弥陀さまは言いません。嬉しいことがあると一緒に喜び、悲しいことがあると我が事のように悲しまれる仏さまです。そしてどんなことがあつても見捨てることなく、あなたと一緒に生きていきますと寄り添ってくださる慈悲という心を持つた仏さまなのです。心の片隅に覚えておいてほしいとお伝えしました。

開会式の後には紙芝居を観てもらいました。そしてお待ちかねの流しそうめん。



午後からは制作で「手作り扇子」を体験し、おやつの間には綿菓子とアイスの差し入れを堪能しました。

子供たちの楽しそうな声や笑顔を見ると開催して良かったと思います。すぐに結果が生まれるわけではありませんが、何十年先に花が咲いてくれればと、今年も種を蒔かせてもらいました。

第52号
(通算392号)

発行元
浄土真宗本願寺派
吉富山 浄覚寺
大阪市平野区
長吉長原3-1-10
06-6790-8350

浄覚寺ヨガ教室

- ・8月16日(水) 10時~11時半
- ・参加費500円
- ・浄覚寺本堂にて

☆ヨガマットの無料レンタルもあります。お友だちをお誘い合わせのうえ、お気軽にご参加ください。

一々のほなのなかよりは

三十六百千億の

光明てらしてほがらかに

いたらぬとらほはさらになし

親鸞聖人『浄土和讃』



御文章に聞く(第45回)

参考文献：『御文章 ひらがな版を読む』 天岸淨圓著 本願寺出版社

末代無智章(五帖第一通) 在家止住の男女
 らんともがら、ここにをひとつ
 にして・阿弥陀仏をふかくたへ
 まいらせて、さら余のかたす
 こゝろをふらず・一心一向にたす
 けたまは深なりとも・かならず
 い罪業は重なりとも・かならず
 彌陀如来はすくいますべし、
 これすなわち・第十八の念仏往
 生の誓願のころなり、かくのご
 とく決定してのうえには、ねても
 さめてもいのちのあらんかぎり、
 称念仏すべきものなり、
 あなかしこ あなかしこ

今回も御文章(蓮如上人からのお手紙)を味わっていきたいと思います。
 前回、仏さまの教えに出会ったが故に、愚かな身であったと知ることができたのだとお伝えしました。また、先月号では「浄土真宗ってどんな教え？」の中で、

仏教語辞典



多くの僧侶がアカウントを持っている。以前はなかなか直接コメントを取ることに躊躇する存在だった僧侶も、今は簡単に繋がることできる。ちよつとした疑問などがあれば気軽に聞いてみると、喜んで答えてくれるはず。

えすえぬえす SNS

『気になる仏教語辞典』
 著・麻田弘潤 誠文堂新光社
 仏教にまつわる用語をイラストとわかりやすい言葉で読み解かれています。ぜひお買い求めください。

ご本願についてお伝えしました。末代無智章の最後に第十八のご本願について味わって終わりたいと思います。
 この願は、生と死の依りどころを持たない者に、それを恵み知らせるためのものでした。我欲にまみれ、罪業に気づかず、苦しみの中に生きねばならない無智の人びとに、本願という正しい依りどころのあることを知らせ、念仏を申しつつ、仏さまに導かれて生きることこそ、真の人生であることと告げられたのです。
 そして、誰もが意味を見出すことのできなかつた「死」にも、浄土に生まれて仏となるという、尊い意味のあることを知らせてくださったのでした。それが「往生」という言葉です。
 このように本願のころがいただけであら、その人には浄土に向かった人生であるという自覚が恵まれます。その生き方は常に阿弥陀仏を仰ぎ、「いのちのちのちかぎり仏の名を称え、仏さまを意識した生活でなくてはならないでしょう。

編集後記

今月も「じゅこう」をお届けいたします。無事にことも会を開催することができました。準備が万全であれば、当日はアツという間に閉会式を迎えています。ただ、驚くほど疲れてはいることに後から気づかれます。今まではやるのが当たり前のようですが、今回初めて「いつまで続けられるのだろうか」と言葉が出てしまったことと、それが子供たち、また次も頑張ろうと勇気が湧いてきます。私が力をもろってありがとうございました。(釋法道)



九月二十三日(祝) 十四時より
 秋季彼岸会 法話 和氣秀剛先生

孟蘭盆会のご法要に併せて、昨年より門信徒総追悼法要を厳修しております。ご法要の中で、お申し込みいただいた故人のご法名を拝読し、偲ばせていただきながら、この度の法要をできるだけ身近なものに感じていただきたいと思っております。別紙詳細をご覧ください。ぜひお申し込みいただければと思います。
 なお、法要の様子は後日YouTube「浄覚寺チャンネル」において配信の予定です。

行事案内

日時・八月十五日(火) 十四時より
 行事・孟蘭盆会並びに門信徒総追悼法要
 法話・花岡静人先生(奈良)
 場所・長原浄覚寺
 (なお、当日のお参りはお休みをさせていただきます)